

台湾の台北駐日経済文化代表処の李逸洋代表（大使に相当）が4日までに産経新聞に寄稿し、昨年の野球の国際大会「プレミア12」での日本の対応に謝意を示すとともに、「国連をはじめとする国際機関への台湾の参加に支持を求めた。全文は以下の通り。

昨年のプレミア12では、当初勝てると思われていなかった台湾代表チームが次々と勝ち進み、東京ドームで悲願の優勝をつかんだ。試合中、台湾の選手が胸の前で両手で何かを指し示す動作が話題を呼んだ。それはユニホームに本来あるべき「Taiwan」の文字を暗に示すメッセージだった。日本がプレミア12で台湾の旗を持って応援することを含め、日本メディアも「台湾」と呼んだことに感謝したい。

今回の貴重な成果は優勝だけでなく、「チーム台湾」の精神で台湾を一致団結させたことだ。一つのスポーツ大会での優勝が大きな感動を与え、誰もが台湾人としての誇りを感じた。他の国ならごく普通のことだ。なぜ台湾人は感動の涙を浮かべるのか。

1971年に国連からの脱退を余儀なくされて以来、長らく台湾は国際社会から排除され無視される「世界の孤児」だった。しかし、台湾人は奮闘と努力を続け、再び世界に注目させることに成功した。今、台湾の人々は自信を

李逸洋・台北駐日経済文化代表処代表

チーム台湾 国際組織の舞台に

持つ「私は台湾から来ました」と言えるようになった。野球のみならず、台湾は経済とハイテク分野で輝かしい成果を上げている。最先端チップ製造能力の92%が台湾に集中し、最大手の台湾積体電子製造（TSMC）はウエハ―受託製造における世界市場シェア率が60%を上回る。

今後20年、人類は新しいAI（人工知能）時代に突入する。台湾は世界におけるサイバー受託製造出荷量の83%を占め、うちAIサーバーは90%を上回る。世界のサプライチェーン（供給網）の大黒柱であり、台湾はこれ以上、世

界から無視されるべきではない。残念ながら、台湾は長年にわたり、国連や世界保健機関（WHO）、国際民間航空機関（ICAO）などの国際機関から排除され、世界の人々の福祉に貢献することも制約されてきた。台湾はなぜ国際社会で「透明人間」のように扱われるのか。その根源は、中国が71年の国連総会第2758号決議（アルバニア決議）を曲解していることにある。この150語の決議は一



(酒巻俊介撮影)

各国次々と決議・動議採択 日本も支持を

大蛇が徐々に首を絞めるかの如く中国が台湾を併呑しようとする暗闘の中でも、友人は一筋の光をもたらしてくれた。昨年7月末、日米欧などの国会議員でつくる「対中政策に関する列国議会連盟」（IPAC）が、中国による決議の不当な曲解に反対し、台湾の国際機関への参加を妨げるものではないと表明する決議案モデルを採択した。

IPACの正義の一声が号砲となり、各国の議会が次々と声を上げ始めた。オーストラリア上院、オランダ下院、グアテマラ国会、欧州連合（EU）欧州議会、カナダ下院、英下院、チェコ下院外交委員会が次々と台湾を支持する決議や動議を採択し、中国による誤った解釈を否定した。各国の友人の声援は大きな潮流となり、台湾が中国による圧力で不公平な境遇に置かれていた状況を国際社会に改めて注目させ始めた。

日本の柔道には「小よく大を制す」という言葉がある。たとえ中国による「文攻武嚇」が続く、決議を歪曲する法律戦が行われる困難な状況でも、しなやかさを持つ「チーム台湾」は民主主義と平和と安定を守り抜き、決して屈しない。日本の友人の皆さんもこの国際的な動きに加わり、決議への理解と関心を深め、台湾への支持をいただけるよう心から期待している。